

事業報告書



特定非営利活動法人 W・I・N・G-路をはこぶ

the Way Into the New Generation !

W・I・N・G !

2004 年度

事業期間

2004年4月1日 ~ 2005年3月31日

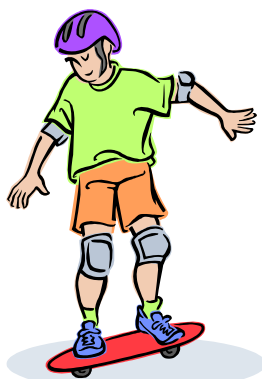
事業の成果

《非営利活動》

【ホームヘルパー派遣事業】

障害者支援費制度も2年目を迎え、利用者もその利用方法に慣れたためか、利用時間が増加。また口コミによって新たに派遣を希望される方々も多く、スタッフがその対応に追われました。

派遣総数は、重症心身障害者を中心に約100ケース。内訳の比率は身障：知的：児童でおおよそ7：1：2となっています。



児童は昨年度同様、口コミによる派遣希望が続きました。児童への派遣の特徴は、養護学校がお休みとなる土曜日や、体育祭など学校行事の振り替え休日に長時間の利用が集中することで、このためスタッフ数の確保、対応が困難となる場合があります。

また急な派遣要望やキャンセル、派遣曜日の変更も多く、他事業所が「児童はたいへん」という現状を当法人も経験しました。ただ当法人スタッフはほぼ全員が常勤スタッフで、施設通所者のケアにも当たっていることから常に事業所に勤務しており、急な要望にも対応ができましたが、他事業所のように登録ヘルパーによる派遣では対応が困難であったと思われます。

一方、昨年度同様、派遣世帯からは、夏休み、冬休みなど長期休暇の対応について要望が多くありました。長期休暇に入ると、ケアのために家族の負担が増える一方、障害児を託す場所がほとんどないことが問題となっています。大阪市では、長期休暇期間に限って支援費の支給時間数を増やす措置をとりました。

当法人では、制度によらない私たち独自の考えに基づくフリースペース“Tamariba”を設置し、これらの課題の解決を図ろうと映画会やスポーツ大会、プレイルームなどを開催しました。

知的は派遣数に大きな変動はありませんでした。長期間関わらせていただくことで、多くのスタッフがケアに参加し、地域での生活を支援する体制も徐々にですが、構築できつつあるのではないかと考えています。

しかし、知的障害者が単身で地域生活されている場合、どのように地域の方々とコミュニケーションを取っていくのか、周囲にどのように障害を理解、受け入れていただくのか、支援のあり方を問われるケースもありました。また私たちと家族との間で利用者への支援方法で考え方が異なり、意思疎通の難しさも経験しました。

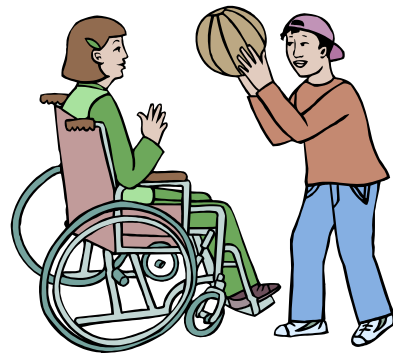
一方で、派遣件数の増加に伴い、新しいスタッフも増え、新たに派遣に加わるケースが数多くなりました。馴染んだスタッフが異動することに不安に感じられ、ケアがスムーズにいかなくなる場合も散見されました。長期間関わることのできるスタッフを育てることと、新しい力をどのようなタイミングで加えていくかが今後も課題となることを想起させる1年でした。

身障は当法人のヘルパー派遣事業の中心をなすものです。長年在宅生活を続け、外出もされなかった利用者宅に対し、まずは身体介護でスタート、徐々に外出支援を行い、結果、施設通所にまで至ったケースもありました。

支援費制度下では、長時間の身体介護の支援費単価が大幅に切り下げられるなどの抑制策が取られましたが、大きな混乱もなく、当法人の場合は安定的な運営を続けることができました。

運営・事務面では、支援費の請求作業に専用ソフトを導入し、事務作業が大幅に削減されました。しかし、ヘルパー記録については、その記録量が膨大なものとなるため、支援記録が手抜きとなる場合もあり次年度の反省材料です。

また厚生労働省の事業所調査では、派遣時間、障害別に数値を求められる質問が多く、ただでさえ膨大な事務量を超える調査内容に閉口させられました。



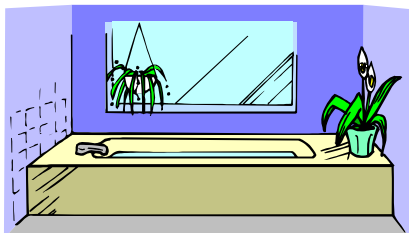
【デイサービス事業】

西成区の「デイサービスゆめとべ」、福島区の「デイサービスさくら」に加え、2004年11月、都島区で「デイサービスロコロコ」を開所しました。都島区の身体障害者小規模通所授産施設「デーセンター機関車」の利用者は、「デイサ

ービスさくら」を利用する形となっていました。都島区に開所できたことで便利になりました。

利用状況は、社会福祉法人ゆうのゆうの通所者を中心に順調に進みました。利用者実数は60人を超えています。利用希望の問い合わせは多いものの、定員の問題から断らざるを得ない状況は昨年と変わりません。

また運営面では、あいかわらず支援費単価が低く、運営は厳しい状況です。ホームヘルパー派遣事業との単価格差が大きく、デイサービス事業単体で黒字化するのとは不可能と言わざるを得ないです。



行政に対しては、デイサービス事業単体で黒字の運営ができるような単価改定が引き続き強く求められます。

【国際交流事業】

ワーキングホリデー制度を利用して来日した外国人青年の受け入れも5年となりました。今年度は、韓国人7人、ニュージーランド人1人、フランス人1人、ドイツ人1人、オーストラリア人1人の計11人を受け入れました。

これまで通り韓国人が多数を占めましたが、欧米圏の青年の増加が今年度の特長でした。ワーキングホリデー協会の求人票に、カナダ人とドイツ人スタッフの感想を掲載したことが、欧米圏増加の理由と思われる。「語学の先生ではなく、日本人の中に入って仕事をすることが素晴らしい経験になる」といった内容で、就労に至らない場合でも見学者が多数訪れました。

しかし、欧米圏出身者の場合、日本語を習得して来日することはまれで、来日後も周囲が英語で話してしまうために日本語の習得速度は、韓国出身者に比べると遅く、スタッフ間でのコミュニケーションに齟齬が生じる場合もありました。

一方、ワーホリスタッフらによる料理教室(韓国料理)をフリースペースで開催。利用者の保護者らが大勢参加し、楽しい時間を過ごすことができました。今後もワーホリスタッフの協力を得て、このような交流事業を積極的に推進していく予定です。

さらにワーキングホリデー期間を終えたスタッフの1人(韓国)が、日本で福祉を学びたいと日本福祉大学への留学を決めました。韓国の大学(インターネット情報学科)は退学という結果になりましたが、私たちとの時間が彼の人生に大きな影響を与えたことを思うと嬉しくもあり、一方で責任の大きさも感じました。



帰国後も近況の連絡を取り合うなど交流が続いているケースも多いのですが、スタッフとの関係は当初に比べると濃密ではないようで、日中活動の場面でもやや積極性にかけるなどの傾向が見られました。このためワーキングホリデースタッフを対象に研修事業を実施し、当法人の成り立ちや現状、ワーホリスタッフ受入の目的などを説明しました。

【フリースペース Tamariba (たまりば)】

フリースペース“Tamariba”設置の目的の一つは、地域交流です。その方法は、施設内に障害者との交流を予め想定した外部の方を招き、行事などを行なう従来の交流方法ではありません。Tamaribaでは、設定した行事への参加者は、その行事そのものに参加することを目的にTamaribaを訪れます。その行事に重症心身障害者も参加しているという設定です。



これは、地域には、子供やお年寄り、障害者や外国人が混然となって生活しているのと同じような環境で自然な形での交流を図ろうとするものです。このコンセプトに基づき、今年度は映画会や料理教室、スポーツ大会、プレイルーム事業を実施しました。土曜日に行うことの多い行事では、地域の小学生にもすっかりお馴染みとなり、毎回訪問してくれる“常連さん”もできています。

また映画会ではチラシを、近所にポスティングするだけでなく、近隣の2つの小学校(岸里小、千本小)や学童保育にも配布。学童保育では土曜の行事の一環に組み込んでいただくなど着実な交流を続けています。今後は、子供以外にも足を運んでいただけるような上映作品の選定や時間の設定が課題です。また、様々な活動も施設利用者やその保護者以外にもその対象を広げることが課題です。



ただ日常業務が多忙なため、スタッフがTamaribaでの活動に積極的に関わる段階までには至っていません。新しいスタッフが創造性を発揮できる環境の整備が不可欠です。またTamaribaのコンセプトを理解し、様々な活動を具体化する力をもったスタッフの養成も課題となっています。

2004 年度 Tamariba 映画鑑賞会での上映作品

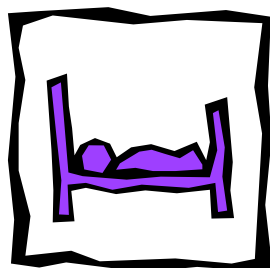
8月11日	ハリーポッター～秘密の部屋
8月21日	小林サッカー
8月25日	ピンポン
9月25日	ゴジラ 三大怪獣地球最大の決戦
9月27日	星の王子ニューヨークへ行く
10月29、30日	ラブストーリー
11月27、29日	うる星やつら2
12月25日	スパイダーマン2
12月27日	となりのトトロ
12月28日	名探偵コナン ベイカー街の亡霊
1月29日	スパイキッズ
2月5日	紅の豚
3月12日	ドラえもん
3月26日	スパイキッズ2 失われた夢の島

【グループホーム準備施設もくもく】

グループホーム準備施設もくもくは、9月下旬から利用を始めました。宿泊訓練を通じて、利用者・保護者・スタッフが本格的なグループホーム設置に向けた課題を探り、その解決方法を模索しようというものです。施設は、西成区の民間住宅1階部分に設け、改修費用は保護者会の積立金、後援会の支援を受けました。

現在は、社会福祉法人ゆうのゆうの通所者が中心に利用。ほぼ毎日宿泊を行っています。当初は戸惑いを見せた利用者も徐々に慣れてきました。そのなかで、スタッフ自身が利用者の日常生活を支えることの難しさを学んでいます。

一方、スタッフと保護者の有志からなる委員会「輪(つながり)」では、本格的なグループホーム設置に向けての活動を続けています。運営費の補助やスタッフの確保などで解決しなければならない問題が多いのですが、2年後を目標に物件探しも始めました。



物件については、土地あるいは建物を賃貸とするのか、購入するのかという選択の問題があります。それぞれに長短所があり、今年度はどちらの方法をとるのかについては結論には至りませんでした。現在はあらゆる可能性を考慮した物件

探しを行っています。

しかし、利用者、保護者を対象としたアンケート調査では、希望する条件ならすぐにグループホームに入りたいという方は、10人を超えています。今後の家族状況を考えてみても、グループホーム一箇所ではとうてい要望を満たすことはできず、他の手段（アパートでの一人あるいは仲間との暮らし）も検討する必要があります。いずれにせよ高齢化する保護者の現状をみると、あまり多くの時間が残されていないというのが現状で、設置に向けた活動のスピードを早める必要があります。

【講師派遣】

昨年度から始めた講師派遣は、派遣先がエールネットワーク専門学校（大阪市浪速区）以外に、関介護福祉学院（西淀川区）、ニフコ（中央区）が新たに加わりました。授業は、「全身性障害者移動介護従事者養成研修」のうち、「重度肢体不自由者における障害の理解」「コミュニケーション」「事故防止に関する心掛けと対策」「姿勢保持」の4講座を受け持ち、さらに当法人がその生徒の実習受入先ともなりました。



重症心身障害者はもちろん、同障害者の地域支援に取り組む当法人の存在を、多くの方に知っていただく良い機会ととらえた活動も確実に広がりを見せています。しかし、講師となったスタッフは授業が日曜日に行われるために休暇をとることができません。交代で講師ができるよう、その力量を持ったスタッフの養成が課題となっています。

生徒の実習受入では、実習費用を利用者に還元することとしました。実習受入では、実習生1人当たり1回2000円が学校から支払われますが、実習を実際に受け持つのは利用者自身であるとの考えから還元を決めました。

【新卒採用】

利用者の増加に対応しつつ、今後の新たな活動を推進していく目的をもって新たなスタッフの採用を行いました。対象は2004年3月卒業予定の学生で、3回にわたり採用試験を実施。結果、女性5名、男性2名の採用を決定しました。しかし、男子学生の受験は、全体の2～3割にとどまる傾向に変化はなく、男性スタッフの確保には四苦八苦しました。3月中旬から研修を各施設で実施し、順調な成果をあげました。

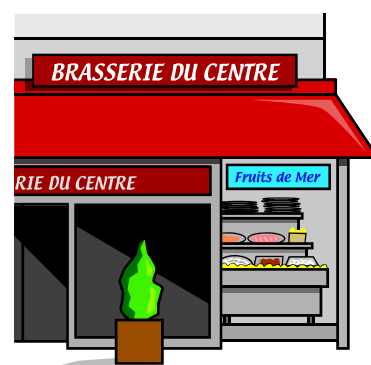
《営利活動》

【リサイクルショップ】

福祉作業センターゆうのゆうと共同で運営を行ってきましたが、その存在も地域で徐々に知られるようになり、固定客もできました。今年度はインターネットオークションでの販売にも積極的に取り組み売り上げをあげることができました。

次年度には西成区において身体障害者小規模通所授産施設「デーセンター夢飛行」がリサイクルショップを新装開店することになり、リサイクルショップへの支援の役割はほぼ終えたと思われます。

今後は新たな展開に備えた準備やアイデアの提供を中心に活動を行うこととなりそうです。



次年度の課題

障害者自立支援法

次年度に成立予定の障害者自立支援法は、その法の賛否は置いて、実施に伴う影響は無視できないものとなりそうです。特に原則1割の自己負担金の発生は、利用者がサービスの利用を抑制する結果となりかねません。サービスの利用を控え、障害者・児の介助・介護を家族、特に母親の負担とすることは、制度本来の趣旨と大きく異なるだけでなく、障害者・児の生活が再び制度スタート前に戻ってしまうことも意味するため、実施には慎重な姿勢が求められるところではあります。

また、グループホームについても、ホーム内での居宅介護支援費の利用について一定制限が加わるなど、サービスの後退とも受け取られるような内容が報道等されています。現在、私たちは重症心身障害者が地域生活するためのグループホーム作りを進めています。私たちが対象としているのは、知的障害者福祉法や身体障害者福祉法の狭間にある重症心身障害者の方々であり、報道されている法案が成立すれば、現行制度下でも運営面でかなりの困難性が予想されるグループホーム作りがさらに遠ざかってもし思議ではありません。再考が求められます。

スタッフ

支援費以降、ニーズの急増に伴い、スタッフ採用を積極的に行って来ました。

その結果、スタッフの多くが 20 歳台の若者で占められることとなりました。勤務条件の厳しい中、日々の活動を支えるために若い力が不可欠なものとなっていますが、一方で生活経験の乏しさから、利用者を支える生活支援が必ずしも十分とは言えない状況を生み出す一因ともなっています。

また制度に過度な依存をせず、自由な発想を維持しつつ安定した運営を行うには、スタッフが様々な福祉活動の領域で創造力、行動力等を発揮することが必要です。多くのスタッフをリードし、次世代を担うスタッフの養成も課題となっています。

社員総会の開催状況

名 称：「特定非営利活動法人 W・I・N・G-路をはこぶ総会」

日 時：2004年4月2日（水）

場 所：西成区民センター大ホール

正会員数：89人

出席者数：80人

議 案：第1号議案 2003年度決算報告

第2号議案 2004年度予算報告

第3号議案 デイサービスゆめとべ改修

第4号議案 議事録署名人

審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。

名 称：「特定非営利活動法人 W・I・N・G-路をはこぶ総会」

日 時：2004年12月10日（金）

場 所：西成区民センター大ホール

正会員数：89人

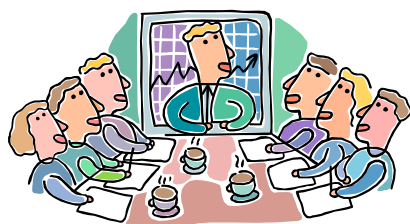
出席者数：79人

議 案：第1号議案 新卒スタッフの採用

第2号議案 フリースペース、グループホーム準備施設の設置

第3号議案 議事録署名人

審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。



名 称：「特定非営利活動法人 W・I・N・G-路をはこぶ総会」

日 時：2005年4月5日（火）

場 所：西成区民センター大ホール

正会員数： 89人

出席者数： 78人

議 案：第1号議案 定款の変更（従たる事務所の廃止）

第2号議案 2004年度決算

第3号議案 2005年度予算

第4号議案 議事録署名人

審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。

理事会の開催状況

日時	出席者	議案	審議結果
2004年4月22日	6人	2003年度決算 04年度採用試験 夏休み	全議案承認
6月23日	6人	デイ増築 なにわゴスペル	全議案承認
7月23日	6人	グループホーム、デイサ ービス名称の決定	全議案承認
8月20日	6人	採用試験結果	全議案承認
9月24日	6人	市からポストカードの 発注。 採用試験（二次） 新たな講師派遣先	全議案承認
10月25日	6人	誕生日休暇 退職金、職能給	全議案承認
11月25日	6人	クリスマス会 採用試験結果、三次 一泊旅行	全議案承認
12月22日	6人	Tamariba 映画 採用試験詳細	全議案承認
2005年1月21日	6人	大阪市監査	全議案承認

2月24日	6人	採用試験結果 2006年採用試験 監査結果	全議案承認
3月17日	6人	2005年度予算 給与規定・退職金規定 新ワーホリスタッフ 異動	全議案承認

